

医療論文を完成させよう — 論文化の意義と押さえておくべきこと —

大島久二[†] 溝口功一^{*}第70回国立病院総合医学会
(平成28年11月11日 於 沖縄)

IRYO Vol. 72 No. 8/9 (353-354) 2018

要旨

本シンポジウムでは、「医療」編集委員会の企画により、普段論文化に慣れていない会員に対して、初歩的なことからわかりやすく解説を行った。統計、利益相反、立案から論文化までの流れと注意点について、編集委員会委員により解説された。そして、初めて論文化する際の実際の問題点とそれを乗り越えられた事象について、投稿者から発表された。本シンポジウムが、学術論文として後世に残り、今後の国立医療の発展に寄与するものと思われる。

キーワード 論文, 統計, 利益相反

本シンポジウムは、国立医療学会誌「医療」の編集委員会からの提案で開催されたものである。元々、「医療」編集委員で前東埼玉病院長であった故川井充氏の発案により、普段論文を書き慣れていない会員に対して論文執筆の意義と方法をお知らせすることを目的とし、まず第68回国立病院総合医学会（平成26年、横浜市）で「医療系論文の書き方と注意点—「医療」に投稿して世の中に発信しよう—」というシンポジウムを開催した^{1)~5)}。今回、重要な点をシンポジウム口演で再確認するとともに、前回含まれなかった視点を加え、2回目となる本シンポジウムを開催した。

本稿では、座長としてシンポジウムの要点を記載することとした。

論文化のための統計手法選択について

国立国際医療研究センター国府台病院の榎本哲郎氏は、査読に耐えうる適切な統計手法の選択について発表した。統計については、国立医療学会の多職種にわたる会員にとってなじみの少ない領域であるが、実際の例を踏まえてわかりやすく実用的な内容であった。統計手法の段階で論文化をあきらめることが少しでも減少することが期待される。

国立病院機構東京医療センター リウマチ膠原病内科、*国立病院機構静岡富士病院（現：国立病院機構静岡医療センター） 神経内科 †医師

著者連絡先：大島久二 国立病院機構東京医療センター 院長 〒152-8902 東京都目黒区東が丘2-5-1

e-mail: HOshima@ntmc-hosp.jp

（平成30年4月19日受付，平成30年6月8日受理）

How to Create Medical Research and Write Medical Papers

Oshima Hisaji and Mizoguchi Koichi, NHO Tokyo Medical Center, NHO Shizuoka-Fuji Hospital (NHO Shizuoka Medical Center)

(Received Apr. 19, 2018, Accepted Jul. 8, 2018)

Key Words: paper, statistics, conflict of interest

わかりやすい利益相反

国立病院機構静岡富士病院（現静岡医療センターと統合）の溝口功一は、国立医療学会所属施設の職員になじみの薄い研究における利益相反について口演した。元来、公務員扱いであった独立行政法人組織の一員は、国民に仕えることを誓約して入職しており、利益相反はある意味当然という感覚もある。しかし、研究における利益相反の考え方はより具体的でもある。これらについての基本知識につき、理解しやすい形で述べられた。

研究立案と論文作成 -過去の研究成果を踏まえて-

東京医療センターの大島久二より、研究を立案することから論文作成に至る具体的な注意点について口演があった。前回のシンポジウムで榎本氏²⁾、川井氏⁴⁾が講演した内容と重複するが、重要なプロセスの紹介が行われた。

論文を書き始める契機と忍耐 -Let's try 論文を書いてみる-

国立病院機構奈良医療センターの関本裕美氏は、薬剤師として、日頃行っている研究や工夫を、なぜ論文として発表するのか、その意義は何であるのかについて、実際の論文執筆者として発表した。とくに、論文作成を初めて行った時のエピソードを含め、論文化の意義と周囲からの助言や支援などを含め、これから国立医療学会所属組織の中心となる若手に向けての力強いメッセージであった。

おわりに

本シンポジウムでは、普段編集委員として実際に投稿された論文を査読している際に、とくに気になった点を中心に口演がなされた。その意味では、一般書にある内容のみならず、国立医療学会の会員にとって、大変身近な話題と解説であったと考えている。論文化により、多くの医療職にそれまでの研究と経験を将来にわたって継承できることを伝えられたと思われ、国立医療の発展に寄与できるものと考えられる。

〈本論文は第70回国立病院総合医学会シンポジウム「医療論文を完成させよう -論文化の意義と押さえておくべきこと-」として発表した内容を座長としてまとめたものである。〉

著者の利益相反：本論文発表内容に関連して申告なし。

[文献]

- 1) 大島久二, 川井 充. 医療系論文の書き方と注意点 -「医療」に投稿して世の中に発信しよう-. 医療 2016 ; 70 : 181-2.
- 2) 榎本哲郎, 古澤由美子, 朴 桂栄ほか. 「研究の設計図」を作ろう. 医療 2016 ; 70 : 183-6.
- 3) 藤本純一郎. 研究倫理と利益相反. 医療 2016 ; 70 : 187-190.
- 4) 川井 充. 決まりを知っていれば論文作成は難しい. 医療 2016 ; 70 : 191-5.
- 5) 長田恵子. メディカルスタッフの投稿 看護の立場から. 医療 2016 ; 70 : 196-8.